

園芸タイムリー情報 《10月上・中旬版》

平成27年10月 1日発行 第10号

【上川農業改良普及センター】

Tel 0166-84-2017 Fax 0166-84-2009

E-mail : asahi-nokai.11@pref.hokkaido.lg.jp

HomePage

<http://www.kamikawa.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/index.htm>

全作物共通

- ①気温低下に応じた生育適温を確保しましょう。また、ハウス内の湿度に留意して換気を行い病害の発生を防ぎましょう。
- ②翌年の栽培に向け土壌診断を実施しましょう。
- ③農薬の安全使用に細心の注意を払いましょう。希釈倍率や使用回数、使用時期を守り、適切な保管、管理を行いましょう。
- ④農作業事故等が発生しないよう、機械整備や体調管理には十分留意しましょう。
- ⑤天候不順により、作業に追われがちですが、安全確認を怠らずに作業に取り組みましょう。

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用ください。

- ◆農薬の使用に当たっては、使用基準を必ず守りましょう。
なお、品目ごとの栽培防除体系を基に減農薬でクリーンな野菜生産を実践しましょう。
- ◆防虫ネット・近紫外線カットフィルム・粘着シートなどを活用し、適切な栽培管理と合わせ、病害虫の発生を最小限に抑制しましょう。

※この情報は、上川農業改良普及センター本所地域(旭川市、鷹栖町、幌加内町、当麻町、比布町、愛別町、上川町)向けに作成されています。
気象・土壌条件作業体系から当地域以外には、適用されませんので十分ご注意ください。
(不利益・損害などが発生した場合、当方は責任を負うことはできません)
※掲載されている農薬情報は、平成27年8月30日現在の登録内容となっておりますので、活用の際は、あらかじめ安全使用基準を確認くださいますようお願いいたします。

■□■□■□■□ GAP手法の活用【環境整備 編】□■□■□■□ 一次年度に向けて、この秋のうちにできることー

- 本年も突発的な激しい降雨が頻繁に見られました。地形や土地条件によっては、雨水の流入による作物被害の発生も懸念されます。
- 本年、被害を受けたほ場や被害を受ける可能性がある場所を再度確認し、秋のうちに対策を図っておきましょう。
- 次年度の作付けに向け、土壌分析を実施しましょう。分析結果に基づき、適切な施肥計画を立てておきましょう。



ほ場周りの明きょ設置で安定生産を！

作物名

花き類全般

病虫害
 生理障害名

ヨトウガ（幼虫）

発生状況

少～中発生

発生時期

7月下旬～



発生の状況・要因

- ・繁忙期によるハウス内観察の怠り、また温度の低下に伴い、害虫発生が少なくなるという油断から、防除を行わないで被害を受けるケースが多い。
- ・若齢幼虫では葉を中心に食害するが、老齢幼虫では花蕾も食害する。
- ・発生密度が高くなると、一気に食害を受け商品価値がなくなる。

対策

- ・ほ場観察を実施し、食害を確認したら早急に防除を実施する。

<防除の一例>

●アディオソ乳剤	2,000倍	発生初期	6回以内
●オルトラン水和剤	1,000倍	発生初期	5回以内
●コテツフロアブル	2,000倍	発生初期	2回以内

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用ください。

作物名

花き類全般

病虫害
 生理障害名

アブラムシ類

発生状況

少～中発生

発生時期

7月中旬～



ひまわりの葉裏に発生



ストックの蕾付近への発生

発生の状況・要因

- ・発生は成長点付近に多いが、品目によっては下葉の裏に寄生する場合（スターチス類）もあり、排出物の汚れから商品価値が低下するケースも多い。

対策

- ・防除後、死骸が落ちづらいので、密度の低い時に防除を徹底する。
- ・薬剤耐性を防ぐため、ローテーション防除を実施する。
- ・発生密度が高い場合は5～7日間隔で防除を実施する。

<防除の一例>

●モスピラン顆粒水溶剤	4,000倍	発生初期	5回以内
●チェス顆粒水和剤	5,000倍	発生初期	4回以内
●コルト顆粒水和剤	4,000倍	発生初期	4回以内

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用ください。

作物名

花き類全般

病害虫
生理障害名

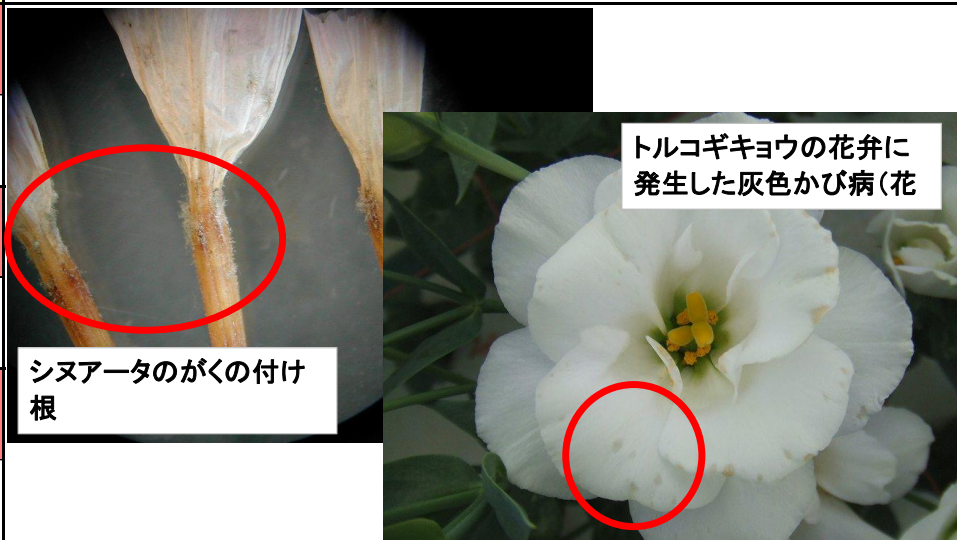
灰色かび病

発生状況

中～多発生

発生時期

7月中旬～



発生の状況・要因

- 気温が下がり、湿度が高くなる時期に発生が増加する。
- 枯葉や葉先枯れ部位また花弁などから発生する。
- 結露によるビニールの露滴が落ちるところから発生が多い。

対策

- 輸送中に病害が拡大することから、クレームの原因となるため、選花調製には細心の注意を払う。
- ハウスビニールの結露は早めに乾かす。
- 今後も天候不順により多湿な状況が考えられるため、循環扇の使用及び週一回の予防防除を実施する。

<防除の一例>

●セ化 アー70アブル20	1,000倍	発病前～発病初期	4回以内
●フルピカフロアブル	2,000～3,000倍	発病初期	5回以内
●アフエットフロアブル	2,000倍	発病初期	3回以内

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用ください。

作物名

きく

病虫害
 生理障害名

アブラムシ類

発生状況

中発生

発生時期

6月上旬～



発生の状況・要因

- ・発生は成長点付近に多く、密度が高いと成長点が湾曲したり、上位葉が汚れ、商品価値がなくなる。

対策

●防除のポイント

- ・上位葉を中心に重点的に薬剤散布を行う。
- ・発生密度が高い場合は、未展開葉にも潜んでいるため、防除間隔を短くする。
- ・ネオニコチノイド系薬剤(アドマイヤー、ダントツ、モスピラン等)では効果が低下している場合があるため、連用は避ける。

<防除の一例>

●モスピラン顆粒水溶剤	4,000倍	発生初期	5回以内
●チェス顆粒水和剤	5,000倍	発生初期	4回以内
●コルト顆粒水和剤	4,000倍	発生初期	4回以内
●ウララ50DF	5,000～10,000倍	発生初期	6回以内

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用ください。

作物名

きく

病虫害
生理障害名

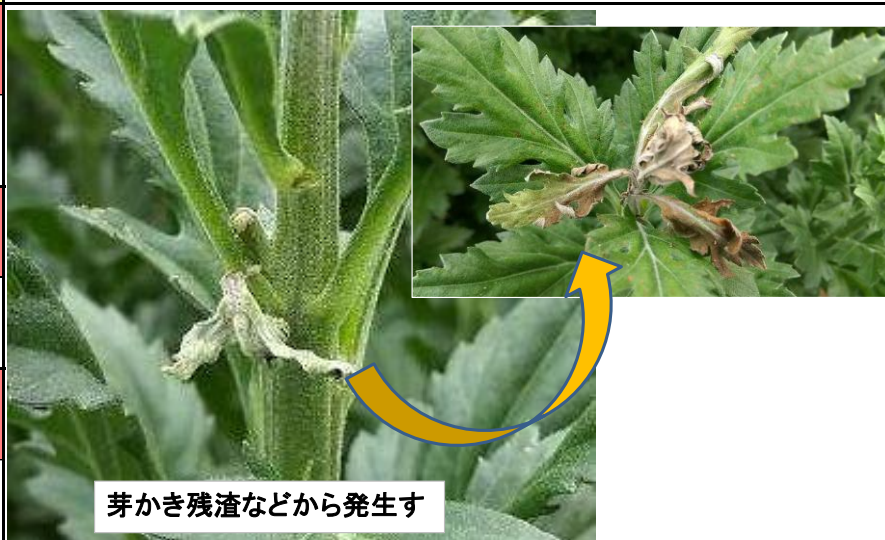
灰色かび病

発生状況

中発生

発生時期

着蕾期～



発生の状況・要因

- ・摘蕾部や芽かき作業中の葉の折損、また摘蕾残渣が残ったところから発生する。
- ・結露によるビニールの露滴が落ちるところから発生が多い。

対策

●防除のポイント

- ・摘蕾、芽かき作業は丁寧に行い、周辺の葉を傷めないようにする。また、その後必ず防除を行う。
- ・結露は早めに乾かすよう努める。
- ・循環扇や加温機ダクト送風により通気性を良好にする。
- ・薬剤耐性を防ぐためローテーション防除に努める。

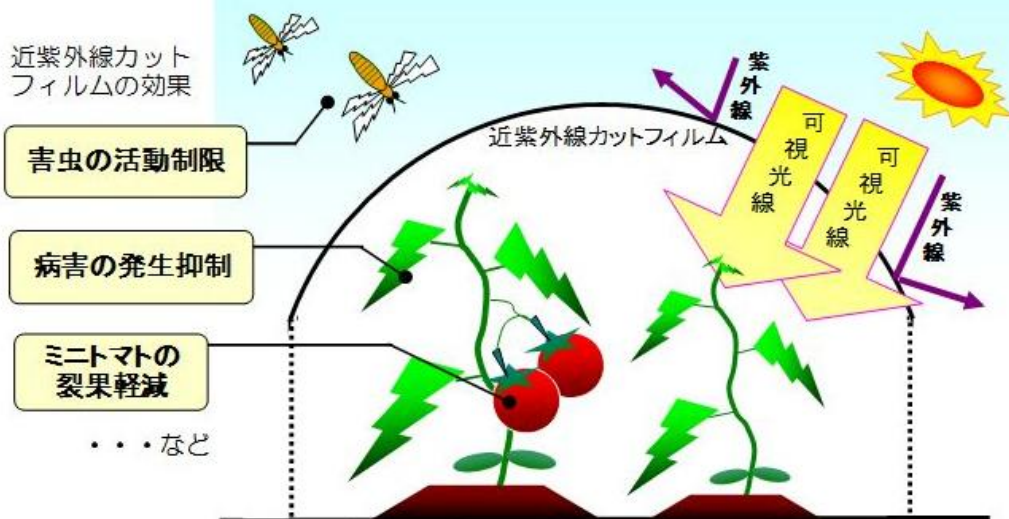
<防除の一例>

- | | | | |
|--------------|--------------|----------|------|
| ●セバア-70アブル20 | 1,000倍 | 発病前～発病初期 | 4回以内 |
| ●フルピカフロアブル | 2,000～3,000倍 | 発病初期 | 5回以内 |
| ●ポリベリン水和剤 | 1,000倍 | 発病初期 | 8回以内 |
| ●アフエットフロアブル | 2,000倍 | 発病初期 | 3回以内 |

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用ください。

近紫外線カットフィルムで品質向上

近紫外線カットフィルムの仕組み(イメージ)



効果と使用上の留意点

- ・近紫外線カットフィルムとは波長380nm以下の光(近紫外線)を実質的に透過させないフィルムの総称です(通称:UVカットフィルム)。
- ・紫外線を好む害虫や病原菌の活動が鈍くなるため、害虫や病気の発生抑制に効果があり、減農薬や良品収穫につながります。
- ・光合成や土壌の硝酸化成を盛んにするため、作物の良好な育成を促す効果が期待されます。

近紫外線カットフィルム使用上の留意点

- ①他の防除技術と組み合わせた総合的防除が必要。
- ②ナス、サニーレタス、赤・青・紫色の花(バラなど)などでは、アントシアン系の色素発現が抑制されるため使用しない。
- ③受粉にミツバチを使用する作物では、ミツバチの訪花行動が低下し着果不良を招くことがあるため使用しない。
- ④土壌硝酸菌の硝酸化成能力の向上効果により、一部の作物・作型で徒長することがあるため、草勢に応じた肥培管理に十分努める。
- ⑤製品によって紫外線の透過率が異なるため、利用目的に応じて製品を選択する。

土壌分析を実施しましょう

土作りの第一歩は土壌診断です。
3年に1度は土壌診断を行い、施肥設計に活かしましょう。

【土壌の採取方法】

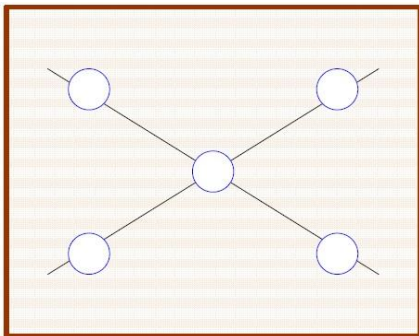


図1 土壌の採取位置

土壌の性質は、一筆のほ場の中でもかなりのばらつきがあります。

対角線に5か所以上から、それぞれ1kg程度採土します(図1)。

採土したものを混和して、一つの分析用の試料とします。

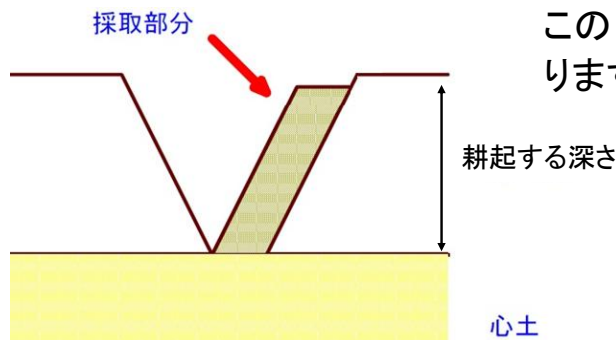


図2 土壌の採取深さ

この中から1サンプル500g～1kg程度とります。

土壌の採取に当たっては、表層部を薄く剥いた後、耕起する深さまでV字型に掘り、その面に沿って一定の厚さで採土します。(図2)

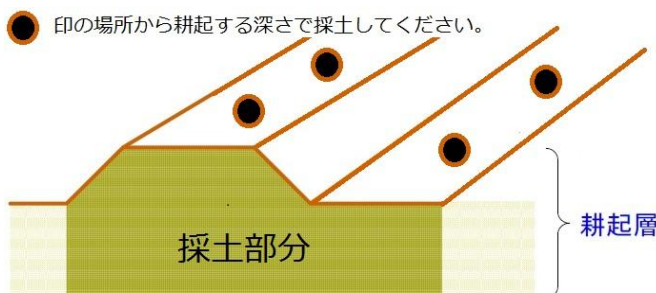


図3 うね立てしている場合の土壌の採取位置

野菜畑などでうね立てしてある場合は、隣のうねにかけて採土するか、うねとうね間を交互に採土します。(図3)

申し込み時期、分析料金などについては、農協等にお問い合わせください。